

県議会 少子・高齢化対策特別委員会

# 子どもの無保険証を解消せよ

## 県内94人うち乳幼児12人も

12日開かれた県議会の少子・高齢化対策特別委員会、子どもの無保険証問題を取り上げました。私は「全国調査で、国民健康保険証のない子どもが約3万3000人と報道されているが、山形県内はどうだったのか」と質問しました。酒井俊昭、長寿社会課国保主幹は、「国保世帯17万8577世帯中、滞納世帯が2万6331世帯で、資格証明書交付（窓口で保険がきかない）世帯は1029世帯、そのうち子どもいる世帯は68世帯、94人（乳幼児12人、小学生43人、中学生39人）」と答えています。子どもは資格証明書を発行しているところは、32保

高すぎる国保税の背景  
国の社会保障費削減・抑制政策  
県内自治体の日本共産党地方議員は、



2008年11月23日 第52号  
発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺ゆり子  
〈連絡先〉  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241  
自宅・山形市南田2-10-5  
電話 023-642-2365

## 最上小国川ダム問題 知事発言は一方的『見解』

最上小国川ダム問題について、斎藤知事は記者会見で、『河床掘削することは、源泉に対して著しい影響を与える恐れがあることから困難である』との趣旨の発言をしました（11/13）。共産党県議団は、「具体的なデータを公開しないまま、知事が一方的に『県の見解』を述べることは問題」とし、県民が『県の見解』を検証するための具体的なデータを直ちに開示することなど、3項目を申し入れました。



党県議団が申し入れ  
具体的データ

申し入れ全文は、共産党山形県議団ホームページをご覧ください。  
<http://homepage3.nifty.com/nokki>

## 「地域医療崩壊ストップ!」 11・15本田宏医師講演会 に参加しました

講演に真を傾ける参加者  
11月15日、山形県中央ホテル

「地域医療崩壊ストップ!」11・15本田宏医師講演会に参加しました。講演に真を傾ける参加者11月15日、山形県中央ホテル

へ丸投げにいたって

「2」兆口あつたら、社会保険や雇用対策をやつてほしいの声を、まさに、日々感ずらるるの美しさを感じて、時節が先延ばしされる可能性も、道されては、その分、国民の政治変革のエネルギーが増殖して大きくなるばかりです。

この間、高い国保税の引き下げや減免制度の拡充、滞納者へ機械的な資格証発行をしないよう求めた議会内外で運動してきました。今回の調査後、全国では、子どもは保険証を交付する方向で改善をはかると自治体が相次いでいます。

高すぎる国保税の問題の背景には、国庫削減・抑制して住民や自治体へ負担を押しつけてきた政策と権力の政策があります。今後も国政と結んで、安心して医療が受けられるよう力を尽くします。

「貯蓄から投資へ」  
金融危機で危うさ表面化

商工労働観光常任委で同席書記

数年前から、国の金融政策として、貯蓄から投資へ、が推進され、株や投資信託の方向へと考える人が少ずつ多くなっているようです。

しかし、この間の金融危機で、預けた元本が減つて損をしたという方が、かなり出てきています。

基本は自己責任ですが、なかにリスクがあることを充分説明していない金融機関もあります。

法的には、取り扱う金融機関には顧客に対する説明責任が求められており、監督権限は金融庁となつていま

最近、あちこちで話題になつてきたのが定額給付金のこと。

報道されている街の声でも、共通していたのが、将来不安は解消されないどころか、かえつて増えているという点です。

「一時的にお金を消費増税で、ええ」という感覚が多く伝わってきまして、さらに所得制限はどうか、自治体は丸投げにいたって

は、自民党はもうだじやないか、末期症状だ」と手むいて。国民は、選挙目当てのパラケンの政策であることを見抜いています。

「2」兆口あつたら、社会保険や雇用対策をやつてほしいの声を、まさに、日々感ずらるるの美しさを感じて、時節が先延ばしされる可能性も、道されては、その分、国民の政治変革のエネルギーが増殖して大きくなるばかりです。